試験後のサンプルについて深さ方向についてカルボニルインデックス深さ分布や融点シフトから暴露の影響についての検討、射出成形品の衝撃破壊特性に関して充填速度変化に伴う物性変化について報告があった。

評価手法としては劣化現象の新規評価として従来とは異なる接触面積計測型の顕微インデントを開発して適用した事例、塗料材料のスクラッチ特性の定量評価、抗菌加工製品の抗菌性の持続性に関する評価法と評価結果について報告がなされた。

材料と成形の関係ではフルオレン含有ポリエステルを用いて射出成形時の金型表面加工と離型性の関係を詳細に検

討した報告があった。

最後の講演では風力発電装置へのプラスチック材料の検討に関する報告があった。風力発電装置で一般的に使用されているプロペラタイプではなく、スパイラルフィン付きマグナス風車の原理、本風車へのプラスチック材料の採用状況および今後の展望について報告があった。

上記の通り講演全体を通して発表内容が多岐に渡っているにも関わらず活発な質疑応答がなされており、聴講者の本セッションへの関心が高いことが伺えた。今後もさらに構造物性、評価に関して幅広い講演および活発な議論を期待する。

ポスターセッション

ポスターセッション報告

村田真伸*

ポスターセッションは初日の午前中より、ウインクあいちの6F展示会場にて開催された。ポスター発表の申し込みは計97件で、前回の秋田のシンポジアに続き、大変な盛況ぶりであった。ポスター発表のうち70件（発表者が35歳以下で審査希望者）については40名の審査員の方にご協力いただき、ポスター賞の審査を実施した。審査方法としては、1審査員あたり7件のポスター発表に対し「ポスターの出来栄え、発表方法、質疑応答」などの審査基準から、1位から7位まで順位化して点数に換算するというものである。審査員からは、すばらしい発表ばかりで、順位を付けかねるとの苦悩の言葉が多く聞かれた。以下に選出された8件のポスター賞を紹介する。

濱辺勇佑（滋賀県立大学大学院）

「電子線照射ナノファイバーPANから調製した炭素材料の微細構造制御に関する研究」

立石純一郎（アシックス）

「オイルブレンドSEBSの構造と力学特性」

奥山佳宗（金沢大学大学院）

「ポリアミド6延伸フィルムの各種延伸方法の挙動解析

と高次構造解析」

伊藤博之（山形大学）

「分岐状ポリエチレンの伸長粘度特性がフィルムのネックイン現象に与える影響」

倉持全宏（日本工業大学）

「遠赤外線ヒータを用いた加熱・冷却金型による射出成形品特性の向上II」

恩田紘樹（群馬県立群馬産業技術センター）

「ノボロイド繊維担持ルテニウム触媒を用いた水性ガスシフト反応の予備検討」

網谷基氣（東京工業大学大学院）

「溶融紡糸過程における炭酸ガスレーザー照射による各種ポリエステル繊維の高強度化」

金谷龍卓（金沢大学大学院）

「PTFEフィルムの延伸時の変形挙動のモデル化とシミュレーション」

ポスター賞の表彰式は、同日開催されたキャッスルプラザでの懇親会の式上で行われ受賞者に三輪実行委員長より記念の盾が手渡された。若手研究者のやる気を引き出す契機として、また発表者と参加者の対話の契機として、非常に意義のあるイベントであったと実感した。最後にご多忙中の中、賞の審査に協力していただいた皆様、ポスターセッションの開催に協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

* Murata, Masanobu

名古屋市工業研究所システム技術部生産システム研究室

名古屋市熱田区六番3-4-41（〒456-0058）

murata.masanobu@nmiri.city.nagoya.jp